



“源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/> 令和7年6月③
住職 恩田仁志 gen-chouanji@aka2.gmob.jp



◆赤川のほとりで暮らす…

大東小6年生に毎年必ず読み語りをする図書があります。「お母ちゃん お母ちゃん むかえにきて」(小峰書店)という絵本です。

著者は奥田継夫さん。この本は大阪で生まれ育った奥田さんが経験された集団疎開の実話が記されています。

昭和19年9月22日、夜、9時52分。疎開第8特別列車は先生と子どもだけを乗せて発車した。

:

17時間かかって、やっと島根県に着いた。

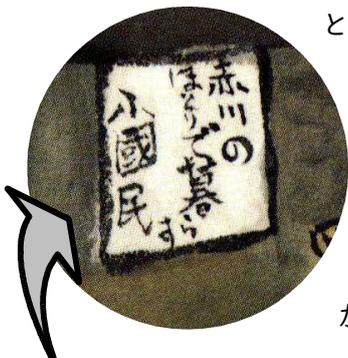
: (後略)

左下の挿絵は、本堂での夜の場面。先生が軍歌を歌ったり、寮母さんが踊ったりと書かれています。

「赤川のほとりで暮らす小国民」
という掲示物が見えます。

6年生に、この赤川は
もちろん学校の前の
赤川のことですと伝
えます。

奥田さんの疎開先は
加茂の慶用寺です。



祥雲寺、宗専寺
そして長安寺に疎
開し大東小学校に
通っていた子ども達
も、赤川の流れを見
ていたことでしょう。



当山所有の疎開看板その他のものを、令和7年度雲南市戦没者追悼式にあわせて開催された「平和展示会」で使っていただきました。



◆こちらも戦後80年に相応しい講演でした

島根第二宗務所壇信徒地方研修会がアスパルで開催されました。戦後80年戦災被災物故者追悼法要や講演会などがありました。



講演講師は三刀屋にある永井隆記念館の藤原重信館長様。

永井隆博士の生涯についてあらためて学ぶことが出来ました。博士が残された言葉「如己愛人」とは、仏教で言う四摂法(布施・愛語・利行・同事)にほかなりません。戦後80年の節目にあたり、あらためて平和を希求する我々でありたいと思います。